

パプリカの夏秋栽培

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

彩りの美しいパプリカは近年需要が伸びており、新しい野菜として注目されている。現在販売されているものは国外産が多く、国内産のものはわずかである。国内生産は九州地方を中心に広がりつつあるが、高温期にあたる夏期生産量の維持が難しい状況にある。そこで比較的夏冷涼な本県の立地条件を生かした夏秋作型のパプリカ栽培について検討したところ成果が得られたので普及技術とする。

2 普及技術

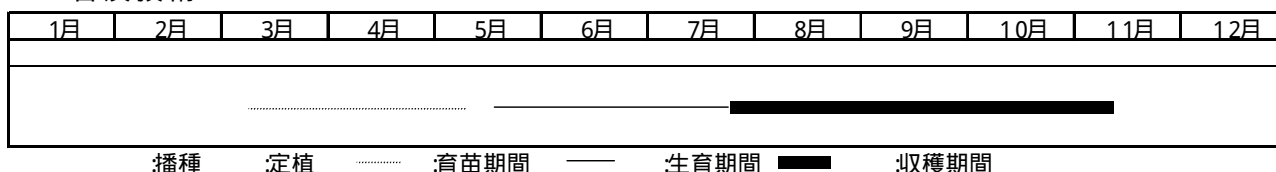


図1 パプリカの夏秋作型

1) 栽培適品種

(1) 果実の着果が多く比較的栽培が容易なのは小果系品種である。パプリカとしては果肉の厚いものが好まれているため大果系ブロック型品種の方が営利栽培に有利である。大果系品種では「スピリット」(赤)、「ライオン」(オレンジ)、「フィエスタ」(黄)が、可販収量が高く果肉も厚い(表1)。収穫量は、可販果でa当たり470kg程度が見込まれる。(表2)。

2) 栽培圃場

(1) 露地栽培では、果実の収量が少なく、良品生産が不可能であるため、ハウス栽培とする。主枝のつる降ろしは困難なため、軒高のハウスが適する(表2)。
 (2) 堆肥は10a当たり2~3トン程度、土づくりはトマトやナスに準じて行う。

3) 育苗

(1) 播種、育苗方法は、トマトまたはピーマンに準じ、セルトレイ等で育苗後、12cm程度のポリポットに鉢上げする。播種後約60日から70日程度の第1花開花頃に定植する。夏秋作型に適する播種期は2月下旬から3月上旬である。
 (2) 育苗初期はトマト等よりやや高めの温度管理を行う。

4) 定植

(1) 大果系品種の栽植様式は、うね幅1.8m、株間40cmで、4本仕立てとする(表2)。

5) 栽培管理

(1) 定植後、分枝の第2節までは摘花する。果実の果形は主枝に着果したものが良好なので同位節側枝の果実は摘果する。主枝に着果しない場合は側枝の果実を残す。側枝

は樹勢，着果状況を見ながら1～2節で切除する。

(2)基肥は，窒素分量でa当たり1.5kg程度とし，追肥は7月上旬から1回にa当たり0.1～0.2kgを葉色，樹勢を見ながら7日から10日間隔で行う。総施肥量は窒素分量でa当たり約3kgを目安とする。

(3)パプリカは，病害虫（アザミウマ，ハダニ，アブラムシ，ウイルス病等）の発生が多いので，遅れずに防除を行う。栽培を行うハウスは，害虫の侵入を防ぐため寒冷遮等の展帳が望ましい。トマトと同様に土壌病害である青枯病発生に注意する。

(4)10月以降は気温が低下するためハウス内の保温につとめる。

5) 収穫

(1)収穫期間は，5月中旬定植で7月下旬～11月上旬となる。

(2)収穫は各品種の果実の肩まで色がまわった頃とする。大果系ブロック型品種，開花から収穫までの日数は，60日程度となる（表1）。

6) 収益性

(1)夏秋果菜類の中では，労働時間が短く，時間当たり労働報酬は高い品目である（図2，表3）。

3 利活用の留意点

1) 販売時は多色組み合わせが好ましい。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所 園芸栽培部 電話022-383-8132）

4 背景となった主な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新需要創出のための新規品目の検索と生産技術の開発（平成12～13年）

2) 参考データ

耕種概要：2000年，2001年

(1)播種及び育苗方法：2000年3月6日，2001年3月6日，72穴セルトレイ育苗後，12cmポット育苗

(2)栽植距離：うね幅180cm，株間40cm，3本仕立て(2000年)，試験区は表1，表2の通り。品種比較は4本仕立て(2001年)，1条植え

(3)施肥量（a当たり）2000年；基肥 N，P₂O₅，K₂O 各1.5kg，追肥 N，P₂O₅，K₂O 各1.2kg，2001年；基肥 N，P₂O₅，K₂O 各1.2kg，追肥 N-1.8kg，P₂O₅-0.72kg，K₂O-1.4kg

(4)定植期：2000年5月19日，2001年5月18日

(5)着果管理：分岐点から主枝2節まで摘果し，主枝に着果させる。主枝に着果しない場合は側枝の果実を1果残して9月上旬まで摘果管理し，その後は放任。

(6)収穫期間：2000年；7月下旬から11月下旬まで，2001年7月下旬から11月上旬まで

表1 各品種の期間内a当たり収量 (2000年, 2001年)

品種	色	形	収穫日数 ^z (日)	平均節数 (節)	1果重 (g)	可販果率 ^y (%)	可販収量 (kg)	果肉厚 (mm)
大果系品種								
完熟レッド	赤	BL	60	25	200	63	211	7.9
ソニアレッド	赤	BL	65	25	189	63	178	6.0
スピリット	赤	BL	60	24	175	88	326	8.2
ワンダーベル	赤	BL	55	25	142	70	315	6.0
ライオン	オレンジ	BL	59	23	193	86	320	8.7
フィエスタ	黄	BL	57	25	165	74	321	6.3
小果系品種								
みかどパプリカ	赤	RO	64	21	132	74	205	7.4
セニョリータ	赤	RO	50	23	57	81	344	6.6
バナナ・ピーマン	レモン	PE	38	21	39	65	514	5.7
ベガサス	赤	PI	64	25	56	76	367	7.5
みおぎ	赤	PI	-	30	75	86	321	5.6
らるく	赤	PI	-	30	66	84	452	5.4
626	黄	PI	-	25	73	96	453	6.3
627D	オレンジ	PI	-	26	84	96	324	6.3

形:BL ブロック(ベル)形, RO ラウンド形, PE ペッパー形, PI ピーマン形
 試験年次:「みおぎ」「らるく」「626」「627D」は2001年にその他の品種は2000年に試験した。
 z 収穫日数:9月に収穫した果実の開花から収穫まで要した日数の平均値
 y 可販果率:可販収量(kg)/総収量(kg)

表2 栽植方法とa当たり収量 (2001年)

試験区 (株間×本数)	平均主枝長 (cm)	平均節数 (節)	可販率 ^z (%)	可販収量		総収量		主枝1本 当たり収穫収穫果率、	
				(個)	(kg)	(個)	(kg)	個数	(%)
40×3	154	268	89	2519	398	2795	445	6.8	44.1
40×4	159	265	95	2821	471	2959	495	5.4	36.0
45×3	155	277	96	2460	417	2583	433	7.0	45.5
45×4	156	260	91	2460	410	2742	451	5.6	39.0

z 可販率:可販収量(kg)/総収量(kg)
 y 収穫果率:総収穫果数/(最終収穫節数×枝数)×100

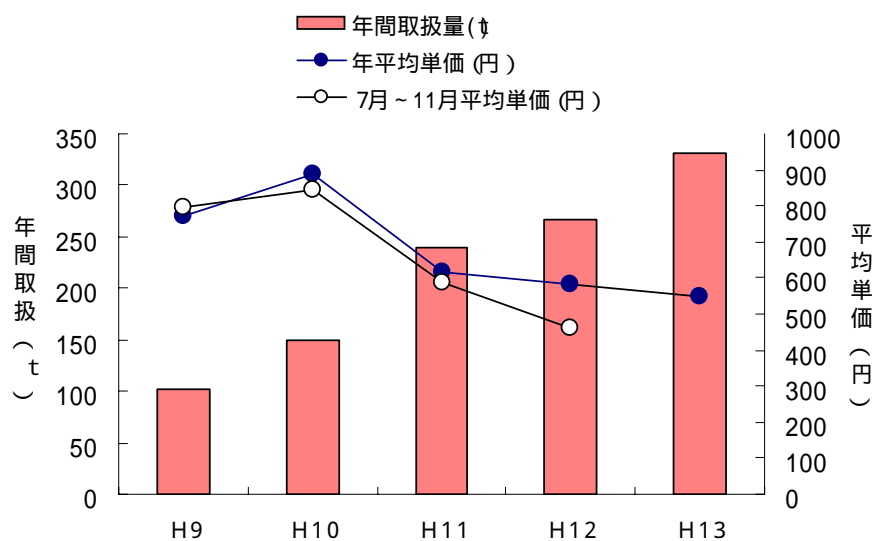


図2 パプリカの仙台市場における年次別取扱量と単価

表3-10 aあたり経営収支

項目	夏秋パプリカ	夏秋トマト	夏秋ナス
収穫量(kg)	4,700	9,000	8,500
単価(円/kg)	461 ^z	247	274
粗収益(円)	2,166,700	2,223,000	2,040,000
農業所得(円)	932,845	865,634	685,334
所得率(%)	43%	39%	36%
労働時間(時間)	500	641	825
100kg経費(円)	26,252	15,082	15,240
1時間当労働報酬(円)	1,866	1,350	903

z:仙台卸売市場平成12年パプリカの7月～11月平均単価
 夏秋トマト,ナスは平成12年度営農基本計画指標第5版より作成
 無加温パイプハウス,規模は20aを想定して試算

3) 発表論文等: なし